

BUN-KA

Kariya Culture

[ブンカ]

はる号

27

2019

文化の種から
新しい文化の花へ

[特集]

かりまるでいく!一ツ木線編 てくてくかりや

[文化工房活動紹介]

フロント

[アールマルシェ]

ライナーノーツ-アールマルシェ的解説-

[ぶんかのめ]

刈谷市歴史博物館専門員 鵜飼堅証

[回り舞台]

回り舞台余滴



BUN-KA Kariya Culture 1st Issue April 1, 2019 Issue design / Takasu Yuka 〒448-0858 愛知県刈谷市若松町2-104 2-104 Wakamatsudcho, Kariya-shi, Aichi, 448-0858, Japan edit/bunkakoboukariya public relations section

市民の文化にスポットライト

ぶんかのめ



ぶんかのめ vol.24

うかい けんしょう 刈谷市歴史博物館専門員。大学のゼミで縄文時代のことを学ぶ。平成9年刈谷市役所に学芸員として入所し、重原本町の中条遺跡の発掘調査担当となる。調査中は小学校等に働きかけて発掘体験や土器作り等を実施。現在も市内各地の遺跡の調査、出土遺物の修復、学術的な資料の作成等を行っている。



刈谷市歴史博物館専門員 鵜飼堅証氏

刈谷のトレジャーハンター 埋蔵物文化財の学芸員

どうして歴史博物館で「刈谷の縄文時代」というテーマを選んだのですか。刈谷市は、愛知県下で縄文時代の遺跡が最も多い地域の一つで、芋川遺跡(一ツ木町)、ハッ崎貝塚(小山町)、天子神社貝塚(小山町)、山の神遺跡(山池町)、本刈谷貝塚(天王町)が「刈谷西部の縄文遺跡」として県の史跡指定を受けているほか、「本刈谷貝塚出土品」182点も県指定文化財となっていて、刈谷の特徴をあらわす時代だからです。

縄文時代の遺跡の面白いところはどこですか。発掘調査で土の中からさまざまな遺構や遺物が発見されるところや、それまでわからなかったことが少しずつわかっていくところにロマンを感じますね。土器や石器などから大昔の人たちの暮らしが見えてくるのが面白いです。中には新潟県のヒスイ、長野県の黒曜石など、産地が限られているにもかかわらず刈谷で出土しているものがあります。なぜ?誰か健脚の人が運んだ?物々交換で刈谷に?などと想像しながら、大昔から遠くの地ともつながっていたことが感じられることも面白く思います。もうひとつ、天子神社貝塚の土器の底についていた布の痕は、縄文時代の布(編布=あんぎん)の存在を示す県内初の事例として専門家から評価されています。ほんの小さな破片にも当時の情報が含まれていて、それを見つけていくのも面白いです。常設展示では、これらのさまざまな出土品を多くの皆さんに見てほしいと思います。縄文時代以外の遺物も収蔵庫にたくさんあるので、今後企画展などで紹介していきたいと思っています。大昔の刈谷に住んだ人たちの暮らしを楽しく学び、体験できる歴史博物館にぜひお越しください。

[担当: 野村] ■詳細は、文化工房かりやのブログ [http://bkkariya.wordpress.com/] で!

「回り舞台余滴」

宝暦8年(西暦1758年)12月の大阪角座で「三十石鐘始」という芝居を棧敷で見ていた観客は、大切りの場面で思わず目を見張ったことだろう。なんと、今まで見ていた舞台が、ゆっくり動き始め、180度回転すると、次の場面に転換していたではないか。これが、日本で、いや、世界ではじめて劇場に「回り舞台」が登場した瞬間である。仕掛け人は並木正三、この芝居の作者でもある。大々的な土木工事をおこなって造られた。「回り舞台」は、大評判になり、芝居は翌年3月まで大入り満員の大当たりだったという記録がある。「回り舞台」とは、舞台中央の床を

円形に切った盆※を、奈落※で心棒を回して転換させる舞台装置のことで、それによって舞台転換を早め、いろいろ複雑な装置を組み立て、ケレン※の多い舞台を演出することができるようになった。後の鶴屋南北や河竹黙阿弥が大いに活用することになる。当時、日本は鎖国時代だったため、ヨーロッパ演劇に取り入れられたのは138年後の1896年、ドイツの劇場が初めてだという。現在では、オペラ、ミュージカルにかかせない装置である。

※盆…劇場の床を円形に切り抜き、その丸い部分がぐるぐる回る舞台の意味※奈落…舞台や花道の地下のこと。※ケレン…主に歌舞伎や人形浄瑠璃で使われる用語「見た日本位の奇抜さをねらった演出」という意味

[今回の担当] 演劇老年「えつじい」こと「鈴木鋭二」です。

Column

文化工房 回り舞台 vol.5

もっとつながる

文化工房かりや

市民目線の文化発信、「みんなで文化、創造中。」

〒448-0858 愛知県刈谷市若松町2-104
TEL:0566-21-7430 / FAX:0566-21-7440
mail:bunkakobo@kariya.hall-info.jp



Twitter : @B_K_kariya

Facebook : bunkakouboukariya

Blog : bkkariya.wordpress.com

文化工房かりや



てくてくかりや



刈谷市のまちを無料で運行している刈谷市公共施設連絡バスの愛称が4月1日より「かりまる」と決定し、路線、時間も多少変更されました。刈谷市をぐるっと回るから、まる＝円＝縁。という意味をこめて市民公募選考でこの名前に決定しました。3月19日には、ウイングアリーナにて刈谷市公共施設連絡バス愛称表彰式が行われ3名の市民の方が表彰され、愛教大生デザインによる「かりまる」ロゴのついた6色のバスのお披露目もしました。私たちは、かりまるに乗って刈谷のまちを探索してみました。今回は一ツ木線で行く“てくてく刈谷”です。[担当:井野・稲垣]



刈谷西部の縄文遺跡

縄文時代から奈良時代にかけての複合遺跡である【芋川遺跡】。平成8年に芋川公園として整備され「刈谷市西部の縄文遺跡」として愛知県の指定史跡になりました。公園に入ると中央に遺跡の場所を示す看板があります。遺跡からは、縄文・古墳・奈良それぞれの時代の竪穴居住跡等と、土器や埋葬人骨などが発掘されたそうです。居住跡は石などで跡地がわかるようになっており、身近に歴史を感じることができます。



きしめん・ひもかわうどんのルーツ!

平打ちのうどん、芋川(江戸時代の地名で現在の一ツ木町・今川町・今岡町付近のこと)の茶屋で食べられる名物として【芋川うどん】と呼ばれていたとのこと。東海随一とうたわれ、井原西鶴の「東海道中膝栗毛」や十返舎一九の「好色一代男」にも記述が載っているほどの有名うどんです。諸説ありますが、当時のうどんには鶏肉が入っていたため「きじめん」と呼ばれ、それがなまって「きしめん」に、また地名の「いもかわ」がなまって「ひもかわ」と呼ばれるようになったといわれています。当時お店のあった場所(今岡町日向25)には、「芋川うどんの碑」も建てられています。



鯉タシに地元のみりんと仕上げた甘めのつゆに、鶏肉と葱がはいったメニュー。(発売当初は鶏肉を使用していたが入手困難なため、現在は県内産の鶏肉を使用) ※他のメニューも麺を芋川うどんに変更可。

麺は昔の製法により近いものということで、小麦粉と水のみで作っています。小麦粉も当時の製粉技術を踏まえ、地元の小麦を表皮近くまで使用した地粉を使用しており、やや黒っぽいのが特徴。コシのあるしっかりとした麺をお楽しみください!



きさんの店長

いもかわでんが食べられるお店
きさん
●刈谷市一ツ木町7-14-1
●Tel/0566-27-8537
●営業時間/11:00~14:00、18:00~21:00(L.O.20:00)
※平日夜は予約制
●定休日/水曜日の夜、木曜日



マイピバス

民族衣装のポンチョを着て演奏します

南米アンデス民族音楽フォルクローレをケーナ、チャランゴ、ギター、ロンロコ、パーカッションなど、ペルーやボリビアで実際に使われている楽器を使って演奏します。日本でも親しまれている「コンドルは飛んでいく」は、フォルクローレの代表作です。心にしみるどこか懐かしい音色、明るく踊りたくなるリズムにより、皆様にも少しでも南米アンデスを感じて頂けますように心を込めてお届けします。



Joyful glee place

映画「天使にラブソングを」で有名になったゴスペルもとは、賛美歌ですが、リズムの乗って身体を揺らしてのびのび歌います。歌うのが好きな仲間が集まって、名古屋で活動して7年。歌のレッスンを受けたり、ボイストレーニングの指導者だったり、経験者もいます。子どもを抱っこしながら歌うママたちや、子どもたちが走り回っている中で練習を重ねています。歌う喜びをお伝えできるように頑張ります。

[担当:野村麻]

公演スケジュール

※N37 2019年6月15日(土)開催 13:00~14:00

出演 Joyful glee place(ゴスペル)/マイピバス(南米アンデス民族音楽フォルクローレ)

「フロントは出会いがいっぱい」

文化工房かりやの活動に「フロント」があります。「フロント」は、コンサートや舞台等公演のサポートをする仕事です。お客様のチケットのめくり、準備したチラシの配布、お席のご案内。会場のドアの開け閉め、会場内の見守り、公演後のお見送り等々。サポートをするので、公演の表も裏も経験することができます。

去年は、研修で近藤由貴さんのピアノリサイタルのフロントをしました。ご本人が「フロント」に挨拶にきてくれて、びっくり!!可愛らしい方なのに、演奏は力強くて引き込まれてしまい、すっかりファンになってしまいました。今年も5月に「近藤由貴ピアノリサイタル」があります。チケットを買ってゆっくり聴きたいのですが、「フロント」もしたいのでとても悩んでいます。

「近藤由貴ピアノリサイタル」※詳細は刈谷市総合文化センターまで。



「活動紹介」vol.2 担当:野村(麻)